

世界で最初に超音波診断装置をデジタル化した思い出

伊藤健一

横井浩

元東京農工大学教授

元日生病院

イトケン研究所 所長

「デジタルって何?」とか「医療のことを何も知らない電気のエンジニアが...」などという批評の声を、耳にしなが、横井浩と共に超音波の仕事をしたときのこと...

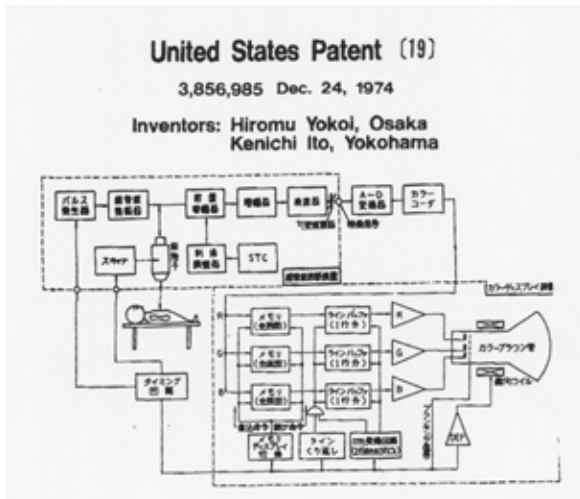
しかし、そうはいつでもデジタルという言葉をご存知ない医用の世界に初めてデジタルという言葉を導入したときの学会での評判の悪かったこと、悪かったこと...特に伊藤は...『医療の事を何も知らない電気屋が...』ということ。

ところで筆者超音波の仕事に携わる前は放送機などの通信機的设计をしてきたのだが、ある時、工場で製造したリニアック(放射線治療器)、それが全く起動せず大問題になった。

筆者、急に呼び出され大改造をして動作させ、性能を発揮できるようにしたのが医用機器に直後関係するようになった契機なのだ。そして次は超音波...とはなったのが1900年。デジタル技術が全く導入されていないのに...

と同じ時に医用機器というものはお医者さんの世界であり電子エンジニアの世界ではないことを知り驚いた。特にアナログの世界からデジタルの時代への移行が遅れていたことに!!

そこで急遽、世界で最初ということで、特許をアメリカにも出願して得られたのが次の特許なのだ。



米国でのPatent。(デジタル式同時断層法)